

「入門 情報幾何—統計的モデルをひもとく微分幾何学—」(初版1刷) 正誤表
(2022年1月12日版)

場所	誤	正
p. 17, 脚注 13	$X(x)$	$X(\omega)$
p. 29, (1.119) 式	$F_n(F_n^{-1}(i))$	$F_n^{-1}(F_n(i))$
p. 35, 下から 10 行目	任意の	各
p. 37, (2.15) 式	$[0, 1]$	$[a, b]$
p. 42, (2.40) 式	$\left(\frac{\partial f_j}{\partial x_i}\right)_{m \times n}$	$\left(\frac{\partial f_j}{\partial x_i}(\mathbf{p})\right)_{m \times n}$
p. 53, 上から 10 行目	とすると,	とすると, $\xi_i > 0$ のとき,
p. 53, 下から 9 行目	より,	より, $\sum_{i=1}^n \xi_i < 1$ のとき,
p. 53, 下から 7 行目	Φ_n は	F_n は
p. 54, 上から 3 行目	正值性	対称性と正值性
p. 54, 上から 6 行目	p	\mathbf{p}
p. 54, 下から 4 行目	実対称	実正方
p. 55, 上から 3 行目	$\partial \Xi_n$	$\partial \Xi_n$
p. 56, 上から 9 行目	任意の	例 2.6~例 2.9 のように表される任意の
p. 56, 下から 7 行目	必要性の証明	証明
p. 56, 下から 7 行目	任意の	まず, 必要性, すなわち, 例 2.6~例 2.9 のように表される任意の
p. 56, 下から 5 行目	逆が~述べる.	削除する.
p. 57, 下から 6 行目	e'_m	e'_{mn}
p. 57, 下から 6 行目	\mathbf{R}^m	\mathbf{R}^{mn}
p. 59, 下から 4 行目	$\mu(1)$	$\nu(1)$
p. 67, 注意 2.4	全文	削除する. (注意 2.5, 2.6 は 2.4, 2.5 となる.)
p. 67, 脚注 17	全文	削除する. (脚注番号 18~20 は 17~19 となる.)
p. 69, 下から 5 行目	任意の	例 2.6~例 2.9 のように表される任意の
p. 70, 上から 3 行目	任意の	例 2.6~例 2.9 のように表される任意の
p. 72, 上から 7 行目	(2.170)	(2.167)
p. 74, 下から 1 行目	最後に, ~示す.	削除する.
p. 74, 下から 1 行目	(2.122)~わかる.	注意 2.6 の冒頭へ移動する.
p. 75, 上から 2 行目	よって, ~なりたつ.	削除する.
p. 77, 下から 3 行目	I	$[a, b]$
p. 77, (3.1) 式	$g'(t)$	$\gamma'(t)$
p. 78, (3.2) 式, (3.3) 式	$g'(t)$	$\gamma'(t)$
p. 78, (3.4) 式	「 $\gamma'(s)$ 」と「 $g'(s)$ 」	$\gamma'(t)$
p. 97, 下から 1, 2 行目	n	m
p. 98, 上から 1 行目	全文	字下げを行わない.
p. 99, 上から 3, 6 行目	n	m
p. 99, 下から 1, 4, 7, 10 行目	n	m
p. 99, 下から 6 行目	$n \times n$	$m \times m$
p. 99, (3.94) 式	m	p
p. 100, (3.95), (3.96) 式	n	m
p. 100, (3.95), (3.96) 式	m	p
p. 100, 上から 7 行目	とまったく同じ	において n を m に置き換えた
p. 107, 上から 3 行目	テンソル	テンソル場
p. 113, (3.150) 式	$\psi(\theta)$	$\psi(\boldsymbol{\theta})$
p. 115, 下から 3 行目	Ω	Ω_n
p. 118, 上から 11 行目	σ -加法族を含む	部分集合系を含む
p. 142, 上から 2 行目	テンソル	テンソル場
p. 171, (5.64) 式	0	$\mathbf{0}$
p. 192, 上から 8 行目	U	D
p. 207, 下から 2 行目	$M \cap U$	\mathbf{R}
p. 221, 脚注	$\left(\frac{\partial y_\alpha}{\partial x_i}\right)$	$\left(\frac{\partial y_\alpha}{\partial x_i}\right)_{n \times n}$
p. 239, 下から 5 行目	座標系と	座標系を
p. 248, (7.74) 式	$\sum_{k=1}^n$	$\sum_{k=1}^m$
p. 252, (7.94) 式	$\mathbf{0}$	0

その他

- p. 35, 下から 10 行目: 「このとき,」の直後に次を追加する.

ある C^1 級の単調増加関数 $\varphi: [a, b] \rightarrow \mathbf{R}$ が存在し,

- p. 35, (2.10) 式: 次の式に差し替える.

$$\gamma(t) = \frac{\varphi(b) - \varphi(t)}{\varphi(b) - \varphi(a)} \mathbf{p} + \frac{\varphi(t) - \varphi(a)}{\varphi(b) - \varphi(a)} \mathbf{q}$$

- p. 60, 定理 2.1 の証明: 第五段階の証明の後に次を追加する.

逆に, (2.96) のように表される g_n を考える. このとき, 第五段階の計算と同様に, $n \geq 3$ としたときのマルコフはめ込み $\bar{\Phi}_n: \bar{\Xi}_n \rightarrow \bar{\Xi}_{n+1}$ は (2.95) の条件をみたす. よって, 第一段階~第五段階の計算と合わせると, 十分性になりたつ.

- p. 74, 定理 2.3 の証明: 「最後に, ~示す.」の部分を実と差し替える.

逆に, (2.157) のように表される T_n を考える. このとき, 第五段階の計算と同様に, $n = 2$ または $n \geq 4$ としたときのマルコフはめ込み $\bar{\Phi}_n: \bar{\Xi}_n \rightarrow \bar{\Xi}_{n+1}$ は (2.156) の条件をみたす. よって, 第一段階~第五段階の計算と合わせると, 十分性になりたつ.

- p. 155, 下から 1 行目~p. 156, 上から 1 行目: 「 f による~となる」の部分を実のように改める.

$f(a) \in O$ となる Y の任意の開集合 O に対して, $a \in O' \subset f^{-1}(O)$ となる X の開集合 O' が存在する